

# PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2001-239870

(43)Date of publication of application : 04.09.2001

(51)Int.Cl.

B60N 2/36  
B60N 2/30

(21)Application number : 2000-052783

(71)Applicant : KANTO AUTO WORKS LTD  
TACHI S CO LTD

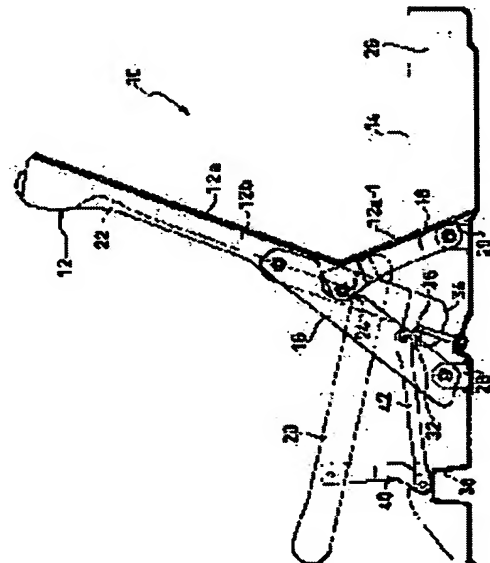
(22)Date of filing : 29.02.2000

(72)Inventor : ABE TSUTOMU  
FUJII HIROYUKI

## (54) UNDERFLOOR HOUSING SEAT STRUCTURE

### (57)Abstract:

**PROBLEM TO BE SOLVED:** To provide an underfloor housing seat structure applicable to a compact car by reducing a turning space and improving the operatability.  
**SOLUTION:** A seat cushion 20 can be folded and housed in an approximately recessed housing space 22 defined at a seating face side provided with a cushion body, of a seat back 12. The seat back 12 can be set and held with a predetermined standing posture by controlling the raising from a reclining posture, the rotation, and the rotation by the engagement of link arms in accordance with the rotational locus of the pair of long and short link arms longitudinally arranged at an interval in a state that the long link arm 16 is positioned at a front side with respect to the short link arm 18.



## LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2001-239870

(P2001-239870A)

(43) 公開日 平成13年9月4日(2001.9.4)

(51) Int. CL <sup>7</sup>	識別記号	F I	メモ(参考)
B 6 0 N	2/36	B 6 0 N	3 B 0 8 7
	2/30	2/30	

審査請求 未請求 請求項の数 5 O L (全 8 頁)

(21) 出願番号 特願2000-52783(P2000-52783)

(22) 出願日 平成12年2月29日(2000.2.29)

(71) 出願人 000157083

関東自動車工業株式会社

神奈川県横須賀市田浦港町無番地

(71) 出願人 000133098

株式会社タチエス

東京都昭島市松原町3丁目2番12号

(72) 発明者 阿部 勉

神奈川県横須賀市田浦港町無番地 関東自動車工業株式会社内

(74) 代理人 100086195

弁理士 薬科 幸雄

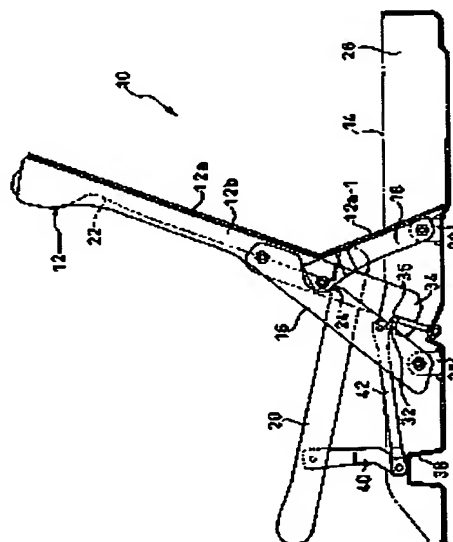
最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 床下格納シート構造

(57) 【要約】

【目的】 回動スペースの縮小化をはかることで、小型車への適用を可能とするとともに、その操作性の向上をはかる。

【構成】 シートクッション20を、シートバック12の、クッション体を配してなる若座面側に規定された略凹形状の収納スペース22に、折り畳み収納可能としている。そして、短手リンクアーム18に対する長手リンクアーム16の前方配置のもとで前後に離間並置された長短一對のリンクアームの回動軌跡に従った、固伏姿勢からの昇降、回動、およびリンクアーム間の係合による回動規制のもとで、シートバック12を、所定の起立姿勢に設定、保持可能としている。





## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 シートクッション、シートバックを所定の格納形態に折り畳んで床下の格納凹部に格納可能とした床下格納シートにおいて、

シートクッションを、クッション体を配してなる着座面に沿ってその跳ね上げのもとで折り畳み可能に、シートバックに連結し、

短手リンクアームに対する長手リンクアームの前方配置のもとで前後に離間並置された長短一對のリンクアームの基端を、床面側支持部に対し、前後方向に回動可能にそれぞれ枢着するとともに、長手リンクアームを短手リンクアームより上端側に配する位置関係のもとで、各リンクアームの自由端を、シートバックの側面にそれぞれ枢着し、

シートクッションを着座面側に折り畳んだ格納形態のシートバックが、床面に形成された格納凹部内へのその倒伏により格納されるとともに、長短一對のリンクアーム自由端の回動軌跡に従った倒伏姿勢からの昇降、回動、およびリンクアーム間の係合による回動規制のもとで、このシートバックを所定の起立姿勢に設定、保持可能としたことを特徴とした床下格納シート構造。

【請求項2】 シートクッション、シートバックを所定の格納形態に折り畳んで床下の格納凹部に格納可能とした床下格納シートにおいて、

シートクッションをシートバックに跳ね上げ可能に連結することにより、このシートクッションを、シートバックの、クッション体を配してなる着座面側に規定された略凹形状の収納スペースに、折り畳み収納可能とし、

短手リンクアームに対する長手リンクアームの前方配置のもとで前後に離間並置された長短一對のリンクアームの基端を、床面側支持部に対し、前後方向に回動可能にそれぞれ枢着するとともに、長手リンクアームを短手リンクアームより上端側に配する位置関係のもとで、各リンクアームの自由端を、シートバックの側面にそれぞれ枢着し、

シートクッションをその収納スペースに折り畳み収納した格納形態のシートバックが、床面に形成された格納凹部内へのその倒伏により格納されるとともに、長短一對のリンクアーム自由端の回動軌跡に従った倒伏姿勢からの昇降、回動、およびリンクアーム間の係合による回動規制のもとで、このシートバックを所定の起立姿勢に設定、保持可能としたことを特徴とした床下格納シート構造。

【請求項3】 ラッチを備えてユニット化されたラッチ式のロック機構をシートバック下端に設け、これに対応するストライカを、長短一對のリンクアームの回動に伴うこのロック機構の移動軌跡上に、床面側への基部の固定のもとで配設した請求項1または2記載の床下格納シート構造。

【請求項4】 シートクッションをその引き出し位置に

設定、保持するレッグを、シートクッションの裏面に折り畳み収納可能に連結するとともに、

このレッグの下端を、シートバックに一端の枢着された連結ロッドの他端に枢着することによって、レッグを、シートバックに対するシートクッションの回動に連動可能とした請求項1ないし3のいずれか記載の床下格納シート構造。

【請求項5】 シートバック背面の下端部を、シートバックへの固着のない、適宜分離可能な形態とし、シートバックの起立姿勢における短手リンクアームを、このシートバック背面の下端部により、その傾斜に沿って後方から被覆可能とした請求項1ないし4のいずれか記載の床下格納シート構造。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【発明の属する技術分野】この発明は、シートクッション、シートバックを所定の格納形態に折り畳み、そのシート全体を、所定の回動動作のもとで床下の格納凹部に格納可能とした床下格納シート構造に関する。

## 【0002】

【従来の技術】たとえば、シートクッション、シートバックを折り畳んで所定位置に格納可能とした格納シートが、荷物室、乗員室を兼用化、あるいは共用化するRV系自動車やワンボックス車、あるいは小型多目的自動車等のリヤシート、主に3列目のシート（サードシート）等として、広く提供されている。そして、たとえば、シート全体を床下の格納凹部にその回動のもとで格納可能とした実開平07-028728号公報等に開示の構成が、この種の格納シートとして知られている。

【0003】この実開平07-028728号公報に開示の構成においては、シートバック、およびシートクッションの枢着されたシートフレームの下端が、床面に対し、タイヤハウスに突設されたピン（ヒンジ）を介して回動可能、つまり使用位置となる所定の起立姿勢からの後倒を可能に連結、支持されており、このピンを中心としたシートフレームの後倒姿勢を格納姿勢とすべく、ピンより後方側の床面スペースに、シートのための格納凹部が形成されている。

【0004】このような床下格納シートによれば、室内への突出部分を残すことなく、シートが格納できるため、室内スペースの有効活用が十分に可能となる。

## 【0005】

【発明が解決しようとする課題】ここで、前出の実開平07-028728号公報の構成は、下端のヒンジを中心としたシートフレームの後倒のもとで、シート全体を床下の格納凹部に格納可能とするものであるため、格納形態の上下長に相当するだけの前後幅が、ヒンジより後方に延びる床面スペースに要求される。つまり、この公知の構成においては、シート後方に大きなスペースの確保できる大型車等において有効である反面、後方スペースを大き



3

く確保できない小型車への適用は困難であり、その適応性に劣ることは避けられない。

【0006】また、この公知の構成においては、タイヤハウス等に突設されたピンをシートフレームのヒンジとしているため、シートの格納姿勢であってもこのピン、あるいはシートフレーム側のブラケット等が床面からの突出、露出状態にある。従って、格納時における外観品質の低下等を伴いやすい。

【0007】ところで、この公知の構成においては、シートバック、およびシートクッションが、シートフレームの上端、および下端にそれぞれ枢着されている。そして、上方へのシートバックの反転回動により形成されたシートフレームの前面スペースに、シートクッションをその跳ね上げのもとで折り畳むことにより、シートバック、シートクッションを一平面上に並べた格納形態を形成可能としている。

【0008】しかし、この構成においては、シートフレーム、シートバック、およびシートクッションそれぞれ個別の回動操作が、シートの格納時、およびシート設定時のいずれにおいても必要となり、なおかつ、通常は、これらの動作に、ストッパーのロック、ロック解除動作も加わるため、格納時、設定時における動作工程数が多く、操作性に劣ることは避けられない。

【0009】この発明は、回動スペースの縮小化をはかることで、小型車への適用を可能とした床下格納シート構造の提供を目的としている。

【0010】また、その操作性の向上をはかる床下格納シート構造の提供を、この発明の別の目的としている。

【0011】

【課題を解決するための手段】この目的を達成するために、この発明の実施の一形態によれば、シートクッションを、クッション体を配してなる着座面に沿ってその跳ね上げのもとで折り畳み可能に、シートバックに連結し、短手リンクアームに対する長手リンクアームの前方配置のもとで前後に離間並置された長短一対のリンクアームの基端を、床面側支持部に対し、前後方向に回動可能にそれぞれ枢着するとともに、長手リンクアームを短手リンクアームより上端側に配する位置関係のもとで、各リンクアームの自由端を、シートバックの側面にそれぞれ枢着している。

【0012】そして、シートクッションを着座面側に折り畳んだ格納形態のシートバックが、床面に形成された格納凹部内へのその倒伏により格納されるとともに、長短一対のリンクアーム自由端の回動軌跡に従った倒伏姿勢からの昇降、回動、およびリンクアーム間の係合による回動規制のもとで、このシートバックが所定の起立姿勢に設定、保持可能となっている。

【0013】

【発明の実施の形態】以下、図面を参照しながらこの発明の実施の形態について詳細に説明する。

4

【0014】図1、図2に示すように、この発明に係る床下格納シート構造10においては、シートバック12が、床面14に対し、長短一対のリンクアーム16,18を介して回動、かつ昇降可能に連結、支持されるとともに、シートクッション20が、その跳ね上げのもとで着座面側に折り畳み可能に、シートバックに連結、支持されている。

【0015】図1、図2に破線で示すように、この発明の実施の形態においては、クッション体を配してなるシートバック12の着座面が略凹形状に形成され、この略凹形状部が、シートクッション20のための収納スペース22として規定されている。そして、シートクッション20は、ヒンジ、たとえば枢支ピン24を介したその後端部の枢着のもとで、特定の二位置間、つまり図1に示す引き出し位置と、図2に示す折り畳み収納位置との間を回動可能に、シートバック12に対して連結されている。

【0016】この構成によれば、シートクッション20を、その跳ね上げによる折り畳みのもとでシートバックの収納スペース22内に収納できるため、シートの格納形態におけるシート全体の厚みは、シートバックの厚み程度に抑えることが容易に可能となる。そして、その平面形状の大きさは、シートバック12の形状と何等大きくないため、この構成によれば、シート格納形態の薄型化に加えた小型化が可能となる。

【0017】また、この形態においては、シートバック12の着座面が、クッション体の配されたクッション面として形成されるため、クッション面を上下方向に広く確保することができる。つまり、この構成によれば、薄く、かつ小型の格納形態を持つにも拘らず、シートバック12のクッション性が十分に高く確保可能となる。

【0018】なお、シートクッション20は、所定のロック手段（図示しない）を、たとえばその先端（回動自由端側面）等に有しており、このロック手段のロックのもとで、シートバックの収納スペース22に対するシートクッション20の折り畳み状態、つまり収納位置でのシートクッションのロック、保持が可能となっている。

【0019】ここで、図2に示すように、この発明においては、その背面（背裏ともいう）12aを上面に配するシートバック12の倒伏姿勢が、床面14に形成された格納凹部26に対する床下格納シートの格納姿勢として規定され、このような倒伏格納を可能とするために、シートバックが、長短一対のリンクアーム16,18によって床面に回動可能、かつ昇降可能に連結、支持されている。

【0020】なお、シートバックの背面12aは、床面14と同等の床面体から形成されている。そして、この床面体としては、硬質ボード、たとえばハードボードをカーペット等で被装したものが、一般的に例示できる。しかし、シートバック12を倒伏した際に、その背面が床面14の一部として機能可能であれば足りるため、その材質、および構成はこれに限定されない。

【0021】図1、図2に示すように、長短一対のリン

50





クアーム16,18は、短手リンクアーム18に対する長手リンクアーム16の前方配置のもとで、前後にそれぞれ離間並置されている。そして、この長短一対のリンクアーム16,18の基端が、前後方向に回動可能に、床面側支持部、たとえば、格納凹部26内に固定されたブラケット28,29にそれぞれ枢着されるとともに、長手リンクアーム16を短手リンクアーム18より上端側に配する位置関係のもとで、各リンクアームの自由端が、シートバック12の側面12bにそれぞれ枢着されている。

【0022】このように、シートバック12は、この長短一対のリンクアーム16,18によって、図2に示すその倒伏姿勢、つまり格納姿勢と、図1に示す、使用姿勢となる起立姿勢との間を回動可能に支持されている。そして、この長短一対のリンクアーム16,18は、図1に示すように、シートバック12の起立姿勢においてのみ、長手リンクアーム16の特定の中間位置に短手リンクアーム18の自由端の係合を得る形状に形成されている。このような、長手リンクアーム16に短手リンクアーム18の自由端を係合させる形状例として、たとえば、短手リンクアームの段差形状等があげられる。

【0023】図2に示す、格納凹部26への格納姿勢を、この床下格納シートの初期状態と仮定する。上述したように、この発明においては、床面体としてなる背面12aを上面とするシートバック12の倒伏姿勢が、格納凹部26へのシートの格納姿勢となっているため、このシートバック背面自体が、荷物室をなす床面14の一部として、あるいは床面そのものとして機能可能となっている。そして、シートバックの背面12aを床面14の一部として規定する場合においては、このシートバック背面を床面とほぼ面一に設定することによって、荷物室の拡張が容易に可能となる。

【0024】また、このシートバック12の倒伏姿勢（格納姿勢）においては、長手リンクアーム16、短手リンクアーム18共に、シートバックとほぼ平行な後倒位置にある。

【0025】この床下格納シートにおいては、通常、シートバックの背面12aに、凹伏把手（図示しない）が形成されており、シートバック12を格納凹部26から引き上げる。つまり起立させる際にはこの凹伏把手が利用される。なお、この発明の形態においては、シートバック12の下半部に凹伏把手を設けることが、その操作性から見て好ましいと思われる。

【0026】凹伏把手の利用のもとで引き上げられたシートバック12は、長短一対のリンクアーム16,18によって規定された移動軌跡を描きながら上昇する。つまり、図3に示すように、シートバック12は、長手リンクアーム18の自由端枢着点を支点として、時計方向、つまりは後傾方向に回動しながら、ブラケット28,29側枢着点を支点とする反時計方向へのリンクアーム16,18の回動のもとで上昇する。そして、図4に示す、長短一対のリ

ンクアーム16,18の自由端側枢着点と短手リンクアーム18のブラケット29側枢着点とが一直線上に整列する中立位置を超えた後、シートバック12は、反時計方向への短手リンクアーム18の回動を伴いつつ、長手リンクアーム16の自由端側枢着点を支点として更に後傾方向に回動する。

【0027】その後、長手リンクアーム16に対する短手リンクアーム18の自由端の係合によって各リンクアームの回動、つまりはシートバック12の移動が規制されることにより、図1に示す、シートバックの起立姿勢が設定される。

【0028】ここで、この発明においては、ラッチ32を備えてユニット化されたラッチ式のロック機構34が、起立姿勢におけるシートバック12の下端部に設けられるとともに、長短一対のリンクアーム16,18の回動に伴うこのロック機構の移動軌跡上に、対応するストライカ36が床面側への固定のもとで配設されている。そして、ストライカ36に対するラッチ32の係合位置、つまりこのロック機構34によるシートバック12のロック位置は、長手リンクアーム16に対する短手リンクアーム18の自由端の係合によるシートバックの回動規制位置として設定されている。

【0029】この構成によれば、ロック機構34でのロックのもとで、シートバック12の回動は確実に止められるため、起立姿勢でのシートバック12の保持が確実化される。

【0030】そして、このシートバック12の起立姿勢において、シートクッション20を、シートバック着座面の収納凹部22から、枢支ピン24を支点とした回動のもとで引き出し、図1に示す引き出し位置に保持することによって、この床下格納シートの使用形態は設定される。

【0031】ここで、図1、図2に示すように、この発明の実施の形態においては、格納凹部26内の、たとえば支持段部38に載置されることでシートクッション20をその引き出し位置に設定、保持するレッグ40が、シートクッションの裏面に回動可能、しいていえばシートクッションの裏面に折り畳み収納可能に連結されている。そして、この発明においては、このレッグ40の下端を、シートバック12に一端の枢着された連結ロッド42の他端に枢着することによって、レッグを、シートバックに対するシートクッション20の回動に連動するものとしている。

【0032】つまり、この構成によれば、シートクッション20の引き出しに連動してレッグ40がシートクッション裏面から突出されるとともに、シートクッションの跳ね上げに連動してレッグは収納されるため、シートクッションの引き出し操作、およびその収納操作が簡略化できる。従って、シートクッション20の引き出し位置、つまりは床下格納シートの使用形態におけるシートバックの剛性強化が、操作の煩雑化を伴うことなく容易に確保可能となる。



【0033】また、この発明の形態においては、シートバック背面12aの下端部、つまりはシートバック背面をなす床面体12a-1を、シートバック12への固着のない、適宜分離可能な形態として形成するとよい。図1を見るとわかるように、このような構成によれば、シートバック12の起立姿勢における短手リンクアーム18を、シートバック背面の下端部12a-1が、その傾斜に沿って後方から覆うため、シート後方からの外観品質の低下が防止できるばかりでなく、その安全性も確実に向上される。

【0034】シートバック12の起立姿勢においてシートクッション20を引き出した形態、つまり図1に示すこの床下格納シートの使用形態から、シートを格納凹部26に格納する場合においては、上述した使用形態への設定手順を逆に行えばよい。つまり、シートクッション20をその跳ね上げのもとでシートバック若座面の収納凹部22に収納し、ロック機構34のロック解除後、シートバック12を、長短一対のリンクアーム16,18による移動軌跡に従って前傾方向に回転させながら倒伏させれば、図2に示すように、シートバック、つまりシート全体は格納凹部26内に再び格納される。

【0035】上記のように、この発明の床下格納シート構造10においては、長短一対のリンクアーム16,18によってシートバック12を支持しており、長手リンクアーム16の自由端側枢着点を支点として、シートバックが回転されるため、その回転半径、および回転に要するスペースの前後幅は、シートバックやシートフレームの下端等を支点とするものよりも十分に短く抑えられ、なおかつ、その回転スペース、および起立姿勢での位置は、格納凹部26の上部スペースにほぼ整列される。

【0036】つまり、この発明によれば、格納凹部26をシートバック12の起立姿勢位置より後方に大きく延ばして設ける必要がないため、床下格納シートであるにも拘らず、その後方スペースが十分に小さくできることから、後方スペースの小さな小型車等へも適用可能な床下格納シートが容易に確保可能となる。

【0037】また、シートバック12の回転半径、および回転スペースが小さくて済むことから、その回転の際に、前方シート、つまりサードシートであれば前方のセカンドシートと干渉することもなくなる。つまり、床下格納シートを格納、使用のいずれかの姿勢に設定する際に、前方シートをその干渉から逃がす方向に一旦移動させる等の付加作業が不要となるため、その操作性、および作業性が確実に向上する。

【0038】更に、この発明においては、長短一対のリンクアーム16,18により規定された移動軌跡に従った、昇降を伴うシートバック12の回転、およびシートバックの起立姿勢におけるシートクッション20の単純な回転により、格納形態、使用形態へのそれぞれの設定が行えるため、その操作工程数は確実に削減される。従って、こ

の点からも、その操作性が確実に向上される。

【0039】そして、図1に示すように、シートバック12は、長手リンクアーム16に対する短手リンクアーム18の自由端の係合によって、その起立姿勢に保持されるため、前方（図中左方）からの荷重を、この長短一対のリンクアームによって受けることができる。つまり、シートバック12に作用する荷重が、ロック機構34に集中することなく分散できるため、ロック機構の安全性、およびロックの確実性が、構成の複雑化を伴うことなく容易に向上可能となる。

【0040】また、発明の実施の形態においては、ストライカ36が、長短一対のリンクアーム16,18により規定されたシートバック12の移動軌跡、ひいてはロック機構34の移動軌跡上に配置されている。そして、この発明のように、長短一対のリンクアーム16,18によってシートバック12を支持する構成においては、その移動軌跡が一定的であるため、ロック機構34によるロックの確実性が、この点からも向上する。

【0041】更に、長短一対のリンクアーム16,18の基端を、格納凹部26内に固定されたブラケット28,29に枢着すれば足りるため、シート格納時におけるヒンジ等の露出が確実に防止できる。従って、シート格納時における外観品質が、確実に向上される。

【0042】そして、この発明においては、シートクッション20を、シートバック12に対し、その若座面側への跳ね上げのもとで折り畳み可能としている。つまり、シートバック12の若座面のほぼ全面にクッション体を配することが可能となるため、床下格納シートであるにも拘らず、その若座感は十分に高く確保可能となる。

【0043】ここで、この発明の実施の形態においては、シートバック12の若座面側に略凹形状の収納スペース22を設け、この収納スペースに、シートクッション20を折り畳み収納可能としているが、これに限定されず、たとえば、略凹形状の収納スペースをシートバック若座面に設けることなく、シートクッションをその跳ね上げのもとで単純に重ね合わせる形態としてもよい。

【0044】しかしながら、この発明の実施の形態のように、シートバック12の若座面側に略凹形状の収納スペース22を設け、この収納スペースに、シートクッション20を折り畳み収納可能とすれば、シートの格納形態におけるシート全体の厚みは、シートバックの厚み程度に抑えられる。そして、その平面形状の大きさは、シートバック12の形状と何等変わりないため、シート格納形態の薄型化に加えた小型化が、その構成の複雑化を伴うことなく容易に可能となる。

【0045】また、この発明の実施の形態においては、シートクッション20をシートバック12に枢支ピン24を介して枢着しているが、シートクッションはシートバックに対して回転可能であれば足りるため、枢支ピンに限定されず、たとえば、リンクアーム等を有すヒンジによ



て、シートクッションを回動可能に支持してもよい。

【0046】上述した実施の形態は、この発明を説明するためのものであり、この発明を何等限定するものでなく、この発明の技術範囲内で変形、改造等の施されたものも全てこの発明に包含されることはいうまでもない。

【0047】

【発明の効果】上記のように、この発明に係る床下格納シート構造によれば、その回動半径、および回動に要するスペースの前後幅が十分に短く抑えられ、なおかつ、その回動スペース、および起立姿勢での位置が、格納凹部の上部スペースにほぼ整列される。つまり、床下格納シートであるにも拘らず、その後方スペースが十分に小さくできるため、後方スペースの小さな小型車等への床下格納シートの適用が、この発明によれば容易に確保可能となる。

【0048】そして、シートバックの回動半径、および回動スペースが小さいことにより、床下格納シートを格納、使用のいずれかの姿勢に設定する際に、前方シートをその干渉から逃がす方向に一旦移動させる等の付加作業が不要となるため、その操作性、および作業性が確実に向上する。

【0049】更に、長短一対のリンクアームにより規定された移動軌跡に従った、昇降を伴うシートバックの回動、およびシートバックの起立姿勢におけるシートクッションの単純な回動により、格納形態、使用形態へのそれぞれの設定が行えるため、その操作工程数は確実に削減される。従って、この点からも、その操作性が確実に向上される。

【0050】そして、長手リンクアームに対する短手リンクアーム自由端の係合のもとで、シートバックを起立姿勢に保持しており、この長短一対のリンクアームが、前方からの荷重を受けるため、その荷重はロック機構に集中することなく分散できる。従って、ロック機構の安全性、およびロックの確実性が、構成の複雑化を伴うことなく容易に向上可能となる。

【0051】更に、長短一対のリンクアームの基端を、格納凹部内に収容すれば足りるため、シート格納時におけるヒンジ等の露出が確実に防止できる。従って、シート格納時における外観品質が、確実に向上される。

【0052】また、シートクッションを、シートバックに対して折り畳み可能に連結しているため、シートバックの若座面のほぼ全面にクッション体を配することが可能となる。従って、床下格納シートであるにも拘らず、その若座感は十分に高く確保可能となる。

【0053】そして、シートバックの収納スペースに、シートクッションを折り畳み収納可能とすれば、シート

の格納形態におけるシート全体の厚みは十分に抑制され、その平面形状の大きさもシートバックの形状と何等変わらないため、シート格納形態の薄型化に加えた小型化が、その構成の複雑化を伴うことなく容易に可能となる。

【0054】更に、長短一対のリンクアームによってシートバックを支持する構成においては、その移動軌跡が一定であるため、ストライカをロック機構の移動軌跡上に配設することによって、ロック機構によるロックの確実性がこの点からも向上する。

【0055】また、シートクッションの裏面に折り畳み収納可能に連結されたレッグを、シートバックに対するシートクッションの回動に連動可能とすれば、シートクッションの引き出し操作、およびその収納操作が簡略化できる。従って、シートクッションの引き出し位置、つまりは床下格納シートの使用形態におけるシートバックの剛性強化が、操作の煩雑化を伴うことなく容易に確保可能となる。

【0056】そして、シートバック背面の下端部を、シートバックへの固着のない、適宜分離可能な形態とすれば、シートバックの起立姿勢における短手リンクアームを、シートバック背面の下端部がその傾斜に沿って後方から覆うため、シート後方からの外観品質の低下が防止できるばかりでなく、その安全性も確実に向上される。

【図面の簡単な説明】

【図1】使用姿勢（シートバックの起立姿勢）での、この発明に係る床下格納シート構造の概略側面図である。

【図2】格納姿勢（シートバックの倒伏姿勢）での、床下格納シート構造の概略側面図である。

【図3】シートバック引き上げ途中での、床下格納シート構造の概略側面図である。

【図4】シートバック回動途中での、床下格納シート構造の概略側面図である。

【符号の説明】

10 床下格納シート構造

12 シートバック

14 床面

16 長手リンクアーム

18 短手リンクアーム

20 シートクッション

22 収納スペース

26 格納凹部

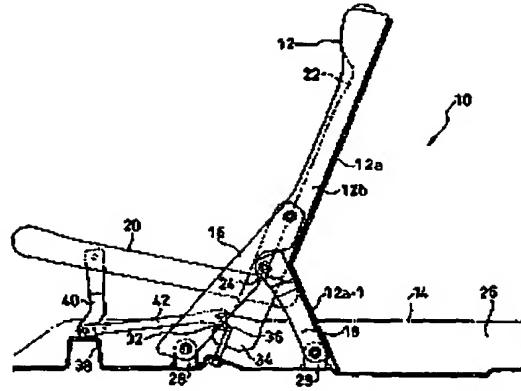
34 ロック機構

36 ストライカ

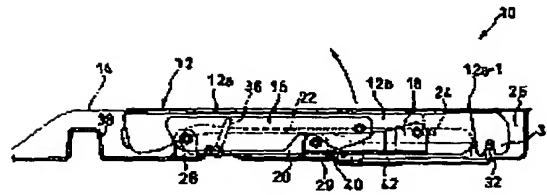
40 レッグ



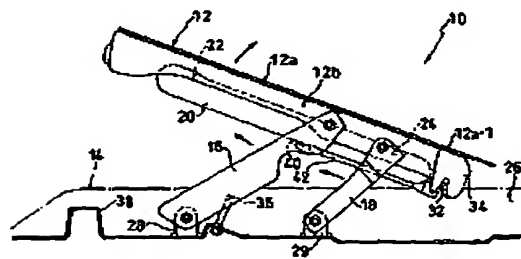
【図1】



【図2】



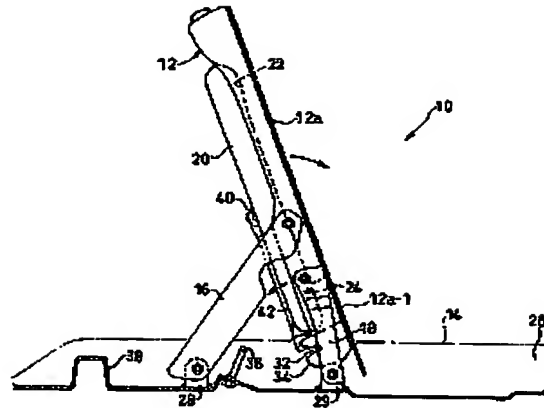
【図3】







【図4】




---

フロントページの続き

(72)発明者 藤井 宏之  
 東京都昭島市松原町3丁目2番12号 株式  
 会社タチエス内

Fターム(参考) 3B087 BD01 BD13 CA11 CB12

